

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

ふえーぬかじ

南ぬ風

2017.4~6
Vol. 43
春号





巣箱から取り出した巣には蜜がいっぱい。ミツバチを切り落とし、遠心分離機にかけて蜜をしぼる。



島の中を歩きながら、ミツバチを探すひるぎ学園の子どもたち。

屋我地島には、小中一貫の名護市立屋我地ひるぎ学園があります。僕は「美ら島タイム」という総合学習の時間で20コマの「ミツバチ教室」を担当していて、平成27年度から小学4年生と中学2年生に教えているんですよ。事前に先生

地域の学校で「ミツバチ教室」を

形づくるといイメージのところが、実際の生態に近いかもしれません。

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

します。一匹一匹が個別の生き物とい

うより、群れ全体で一つの生命体を

形づくるといイメージのところが、

実際の生態に近いかもしれません。

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

します。一匹一匹が個別の生き物とい

うより、群れ全体で一つの生命体を

形づくるといイメージのところが、

実際の生態に近いかもしれません。

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

します。一匹一匹が個別の生き物とい

うより、群れ全体で一つの生命体を

形づくるといイメージのところが、

実際の生態に近いかもしれません。

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

ミツバチを通して、子どもも大人も島の自然を考える

「ミツバチは群れで暮らすんですよ。がどんな構成なんですか？」

「ミツバチは一つの箱に約1万匹が一

つの群れで、みんな自分の巣箱を

覚えていて、よその巣に帰ることは

ありません。働き蜂はみんなメス

で、オスの役割は生殖行為だけ。働

き蜂の寿命は約1カ月で、子守りや

門番、蜜を集める外回り、役割分

担があるんですよ。女王蜂は卵を産

み続けるのが仕事です。」

「一つの群れに女王蜂は何匹？」

「一匹です。群れの中で数が増え

て巣が手狭になると、分家するために

新しい女王蜂が生まれます。母が娘

に家を譲るとい形で古い女王蜂が

群れの約半数を連れて出て行き、新

居を持つ。何らかの理由で女王蜂が

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

します。一匹一匹が個別の生き物とい

うより、群れ全体で一つの生命体を

形づくるといイメージのところが、

実際の生態に近いかもしれません。

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

します。一匹一匹が個別の生き物とい

うより、群れ全体で一つの生命体を

形づくるといイメージのところが、

実際の生態に近いかもしれません。

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

します。一匹一匹が個別の生き物とい

うより、群れ全体で一つの生命体を

形づくるといイメージのところが、

実際の生態に近いかもしれません。

死ぬと、群れ全体も最終的には死滅

します。一匹一匹が個別の生き物とい

うより、群れ全体で一つの生命体を

は養蜂の産業化について考えるところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

「ハチミツを作ってみよう」と

なったので、自分たちで花を植えた

り、巣箱を作ったりしました。「ミツ

バチはいじめなければ刺さない」と

教えますので、ミツバチは怖くない

ということを学習して、子どもたち

は積極的にミツバチのお世話をす

るようになりました。巣箱の内部で

蜜がたまる様子を観察して、自分

ちの巣箱から採蜜する時には「自分

で作るハチミツが世界で一番おい

しい」と変わってきましたね。中学

生は養蜂の産業化について考える

ところまで学びました。

巻頭インタビュー
美ら島をつなぐ
Vol.14

養蜂家 三浦大樹

MIURA DAIKI

文：いのうちちず

1974年東京生まれ。埼玉育ち。幼少時から昆虫や爬虫類など生き物や自然が大好きで、それが高じて気象会社やアウトドアメーカーを経て2010年に沖縄へ引越。ネイチャーガイドとなり、訪れたやんばるの養蜂場でミツバチを知り、2013年から養蜂家見習いに。2016年、屋我地島の養蜂園「おきなわbee happy」を開業。



島の人に喜ばれる
屋我地生まれの
ハチミツを生産
沖縄本島北部、名護市の屋我地島で養蜂業を営む三浦さん。ミツバチの生態を通して、地域の子もたちと一緒に島の環境について勉強する総合学習の授業を担当したり、地域の食と農から広がるプロジェクトに参加したりと、従来型の養蜂家のワタを越えた活動をしている。

contents

美ら島をつなぐ人	02
おきなわ歳時記	04
魚のふしぎ	05
熱帯植物ずかん	05
調査研究	06
普及啓発	08
御城物語	09
沖縄の大木	09
運営管理	10
スポットライトの向こう側	12
財団いんふお	14
編集後記	15
おもろさうしの植物	裏表紙

誌名「南ぬ風(ふーぬかじ)」とは、南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に掲載し全国に発信していきたいと思っています。

43号から46号までの1年間は、沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科「第28回卒業・修了作品展」で受賞した4作品が表紙を飾ります。若い才能にご注目ください。



作品タイトル「うかぶ」
沖縄美ら島財団理事長賞

沖縄県立芸術大学 美術工芸学部
工芸専攻漆芸分野
宇地原 梓さん(沖縄県出身)

壁かけの花器としてつくったという漆器の三部作。だがいずれも水を張れる構造ではなく、造花を想定している。「最初から壁かけひらがなの文字、み、わ、すのイメージでデザインしました」原型に麻布を貼って漆を塗る乾漆技法を選んだ。「乾漆は軽いから壁かけも作れる。大学で学んだ基礎技術をベースに、自由に表現したかった」と語る。



朝、ノロによる祈願が終わったら、いよいよ3つのムラが競う糸満パーレーが始まる（写真提供：糸満市）

ハーリーとは、爬竜船の中国読みが定着したとされる島言葉で、爬竜船競技のこと。その起源には諸説あるが、一説には南山王となる豊見城城主の汪応祖が明に留学中に見た爬竜船競技を、約600年前に豊見城で開催したことが始まりとされる。爬竜船とは龍の頭と尾があらわれた、いわゆるドラゴンボートなのだが、現在は那覇市と豊見城市で爬竜船が使われるのみで、他の地域では木造の漁船サバニをベースにした、龍の装飾のないハーリー舟が使用される。

ハーリーの開催時期は地域によって異なり、糸満市の糸満をはじめとする漁港では旧暦の5月4日（ユッカヌヒ）またはその前後に開催する例が多い。沖縄本島北部などでは旧暦7月の海神祭で開催されるほか、豊年祭でハーリーを行う黒島や、節祭でハーリーを行う西表島祖納などの例もある。沖縄県内最大規模の那覇ハーリーは、新暦5月4日、ゴールデンウィークの真ただ中に開催され、観光客にも人気のイベントとなっている。

糸満では「ハーレー」と呼び、大漁と航海安全を祈願する海人の祭りとして親しまれている。現在は神事としての御願パーレー、速さを競うアガイスープ、コースの途中で舟をわざと転覆させて起こすという勇壮なクヌカセー、中学生バー

ハーリー



クヌカセーでは転覆したサバニを早く起こして態勢を立て直すという海人の技術を競う（写真提供：糸満市）

レー、青年団パーレーがムラ対抗で行われる。これは糸満旧市街地域の住民・関係者が、昔ながらの集落である西村・中村・新島の3つのムラに分かれて、ムラの名譽をかけて競い合う伝統行事だ。イベントとしては地域の人が参加する高校生競争、教員団競争、職域競争が行われ、漁港の中に放ったアヒルやスイカを取るアヒル取り・スイカ取りも人気だ。

「ハーリー鐘が鳴ると梅雨があける」ということわざが当たると、「本当に梅雨があけた。昔の人はすごいさー」という会話が繰り返される。

深い海の底で暮らすコトクラゲ

魚のふしぎ vol.03

「クラゲ」と聞くと海中をふわふわ漂う姿を思い浮かべる方が多いと思いますが、日本近海の水深70〜300mの海底には、コトクラゲという堅琴のような形をした少し変わったクラゲが生息しています。サイズは大きいもので15cmほど、体色はピンク色や赤色、黄色、白色など様々な個体が確認されています。

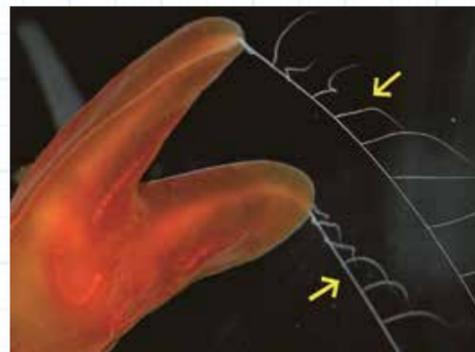
一般的に知られるクラゲはサンゴやイソギンチャクと同じ刺胞動物に属しますが、コトクラゲは有櫛動物に属します。海中を漂わず海底でサンゴの仲間や岩や泥など様々な場所に付着して生活しています。餌は体の先端から粘着性の触手を長く伸ばし、流れてくる動物プランクトンを捕まえます。

コトクラゲは深い海に生息するうえに体が脆いので、採集は非常に困難です。そのため生態についてはまだ分からないことが多い生き物です。

(谷本都)



コトクラゲ(体色や模様は様々)



餌を捕まえる触手

熱帯植物ずかん vol.03

～アデニウム～

科名:キョウチクトウ科
学名: *Adenium obesum*
英名: *Desert rose*

アデニウム属の植物は、アフリカ、アラビアなどの熱帯から亜熱帯の地域に約15種が知られています。属名は、本種が自生しているイエメンのアデンという地域に由来します。

乾燥地に自生し、根や幹に水分を蓄えるためとっくり形に肥大して多肉質になっています。英名でデザートローズ(砂漠のバラ)とも呼ばれ、枝の先端部分にラッパ状に開いた筒型の美しい花を咲かせます。花色は、桃色で中央近くが淡色になるものが基本ですが、花色の濃いものから、白色に近いものもあります。

東南アジアなどでは品種交配により様々な花色や、花びらが重なって咲く八重咲きの品種が作出されており、園芸店でも見られるようになりました。

原産地のアフリカなどでは、冬の乾燥期は落葉して休眠しますが、沖縄では少し葉を落とす程度で開花を続けることができます。一般的に鉢物として栽培されますが沖縄では日当たりが良く、排水の良い場所であれば露地栽培も可能です。(鳥袋 雅矢)



沖縄の海洋文化と向き合う



写真②：海洋文化館の「宝」を守り、残すために(資料調査)

これまでの取り組み

沖縄美ら島財団総合研究センターでは、これまで沖縄本島北部とその周辺の島々をフィールドに、海と向き合いながら暮らしてきた人々の民俗に関する調査研究を行ってきました。たとえばハーリー、ハーレーと呼ばれる船漕ぎ儀礼の現状に関する悉皆調査があり、当センターが運営する美ら島自然学校がある名護市嘉陽・安部集落では、人々の世界観や社会構造、自然利用に関する民俗誌的調査を実施してきました。

そして調査時に撮影した写真や映像などは、逐次、現地に還元してきました。これらは将来的にアーカイブ化して、一般公開できるよう整備を進めているところです。こうした基礎的な資料は、将来、当センターが行う調査・研究に資するだけでなく、沖縄の海にまつわる民俗に興味を持つ人々にとっても有用なものになると期待されます。

また、海洋博公園海洋文化館(以下、海洋文化館)には、1975年に開催された沖縄海洋博覧会当時に収集された大小のカヌーや道具類が、手つかずの部分が多々多くあります。さらに海洋文化館で比較の対象に選ばれなかったコトやモノは、それこそ太平洋各地にも沖縄にも無数に存在します。今後は調査対象を広げてそうしたコトやモノを取り上げるとともに、すでに取り上げていることからについても研究を深めていきます。

そのため、当センターでは、太平洋地域と沖縄との比較研究を視野に入れ、かつ海洋文化館の活用促進を図るために、県内外の様々な分野の研究者だけでなく、船の愛好家や太平洋の島々の暮らしに興味をもつ人々など一般の方々にも広く呼びかけて、海洋文化館の「友の会」のような集まりを持てるよう、準備を始めています。



写真①：ハーリー(競漕儀礼)の前に祈る女性(民俗調査)

など、今となつては現地でも失われた珍しい資料が数多く展示・収蔵されています。その中には最後の1艘になつてしまった沖縄本島北部の木造船タタナーや、約60年ぶりに製作が試みられた西表島のマチキフニ(松木舟)など、失われる瀬戸際で守られた地元・沖縄の資料も含まれています。かけがえない文化的な遺産として、何としても将来へ残して行かなければなりません。

そのため、当センターでは2015年から文化財保存・修復の専門業者の協力を得て、海洋文化館の展示室や収蔵庫内の温湿度や害虫・害獣の

たとえば、専門家を交えたギャラリートークやテーマを持たせた展示解説会を開催し、その模様をニュースレターの形で発信するなどして、海洋文化館のファンを輪を広げたいと考えています。それが将来的に海洋文化館を舞台とする幅広い研究機会の創出につながり、さらに普及啓発事業の充実にもつながると期待されるからです。

(板井英伸)

侵入状況などを調べ、個々の資料の状態を把握し、保全・修復の必要性について確認する事業を進めてきました。2017年1月には調査が終了し、現在は報告書の編集作業を進めているところです。

そして平成29年度からはとくに保存状態に不安があり、緊急性の高い資料を対象に選り、修復や保全に関する方法を検討して、具体的な修復計画を立てる予定です。そのためにも当センターでは、海洋文化館のすべての資料をデータベース化する作業も進めています。

海洋文化館の豊かさ

海洋文化館には、造船や航海技術、人やモノの移動、漁撈・漁業など海に関係することだけでなく、太平洋の島々に暮らす人々が伝えてきた芸能やファッション、農耕・農業や食生活、信仰など、海とは直接、関係がなさそうな資料も展示されています。また、その解説文も、文化人類学や考古学、言語学、形質人類学、歴史学、民俗学など、多くの学問の手法で書かれています。つまり同館の展示は、取り上げるテーマもそれについて語る手法もともに豊かなのです。

こうした豊かで幅の広い展示手法は、貴重な資料の存在とともに、海洋文化館の誇るべき特徴のひとつと言えるでしょう。

そして、こうした特徴は、海洋文化館を舞台とした調査研究に大きな可能性を与えてくれるものと期待されます。

たとえば、展示には、沖縄と太平洋の島々を比較する視点も含まれています。沖縄には太平洋各地の民俗に似た事例が数多くあります。祭りや行事に現れる仮面の来訪神、人々が棒を打楽器のように打ち鳴らしながら踊る芸能、身近な植物を利用する民具づくりの技、タロイモ(ターナム)の料理、海中の石垣に囲い込んで魚を捕る魚垣(カキ、カツ)という漁法、人生の通過儀礼として行われる女性の入れ墨(ハジチ)の習俗などは、その代表的なものでしょう。海洋文化館ではそうした沖縄の事例も、太平洋の事例と並んで展示しています。

調査・研究・普及啓発の拠点として

しかし、沖縄と太平洋の島々を直接比較する調査や研究は、日本や中国との間で行われてきたそれに比



写真③：海を越えてつながる自然利用の知恵(太平洋地域との比較研究)

美ら島自然学校から沖縄の人々へ



小中学校を対象とした学校連携事業のようす



イノーの生体観察のようす

名護市の東側に位置する美ら島自然学校は、2009年に閉校した旧名護市立嘉陽小学校の跡地利用事業者として沖縄美ら島財団が2012年に名護市より選定され、2015年7月21日から管理運営を開始しました。旧嘉陽小学校は、海に面した素晴らしい自然環境の中、ウミガメの飼育活動を通して学習に力を注ぎ、環境庁長官賞を受賞するなど高い評価を受けており、当財団の職員も、当時ウミガメの飼育指導や講義などでお手伝いをしていました。これまでの歴史を大切にしながら、当財団では東海岸における調査研究及び普及啓発事業の拠点として「誰もが学べる美ら島自然学校」をコンセプトに活動を行っています。2016年10月にはウミガメ飼育施設を新設し、約100個体のウミガメ類幼体を飼育しています。

美ら島自然学校では、施設周辺が海と山に囲まれ、動植物の観察・体験学習に適した地理的特性を活かし、主に小中学校を対象とした学校

連携と、一般の方を対象とした学習会を行っています。小中学校を対象とした学校連携では、児童・生徒の地域環境に対する興味関心の向上を図ることを目的に、総合的学習の時間や単元授業、クラブ活動などにおいて沖縄の身近な環境や動植物を題材とした学習活動を行っています。1〜2回で完結する出前授業だけでなく、年間8回にわたって実施するプログラムも行っており、身近な自然環境や児童・生徒自身が疑問に思ったことについて学びを深める学習の実現を目指しています。平成28年度は23校68件、延べ約2,300名の児童・生徒がプログラムに参加しました。

一般の方を対象とした学習会では、週末や祝日を中心に、ウミガメやサンゴ礁の生き物、漂着物などを題材とした野外活動や生体観察を含む体験型の学習会を行っています。他にも自然素材を用いた工作教室、専門家による講演会などを原則無料で開催し、ご家族やご友人、お一人でも楽しみながら学べる内容



サンゴの型取り染めのようす

となっております。

今後は沖縄の重要な資源である自然環境や固有の文化などを活かしながら、沖縄の宝を継承する活動を行うことで、地域に根差した美ら島自然学校を目指していきます。

ぜひ一度、美ら島自然学校に足をお運びください。

(鈴木瑞穂)

うぐしくものがたり Vol.14 御城物語

かつて、首里の人々が「御城(うぐしく)」と呼び、敬愛のまなざしで見上げた首里城。首里城とその周辺に関するトリビアを語る歴史エッセイ。

首里城と活花

首里城の建物の中には、牡丹の唐草模様等いくつもの花々が描かれています。それらの花々は、王権の象徴や富貴の象徴を意味しています。

実際の花々については、南殿・書院・鎖之間などの建物の中で床の間の一つとして、活けられていました。特に公式的な外交の場面では、掛け軸や香炉などと一緒に活花が飾られていました。首里城内での花の活け方など具体的な史料は残されていないものの、薩摩へ華道の修行に行っている家臣がいる事など日本風の立花文化や茶の湯文化等が伝わっていた事が分かっています。

八重山諸島の旧家には、活花に関する家伝書も残されており、琉球王国時代の末期

には、首里城だけではなく、士族層の間にも座敷飾りとして床の間に花を活ける文化が教養として広まってきました。

その他、首里王府の役職の中には花当と呼ばれる若衆(元服前の無冠の男性)が務める役職がありました。評定所(行政機関)をはじめ、首里城内の各役所に花当が配属されていました。それらの花当は、様々な雑務に加え、床の間に飾る活花に関する仕事もしていたと考えられています。

往時の南殿・書院・鎖之間では、花々が活けられていた事に思いを馳せつつ城内と庭園をお楽しみください。

(幸喜淳)



「石垣家文書」提供・石垣市立八重山博物館

沖繩の大木



Vol.35
 <和名>
 ヤエヤマネムノキ
 <科名>
 マメ科
 (学名: Albizia retusa)



名護湾に面した、風光明媚な地勢を有する許田集落の海岸林に、ヤエヤマネムノキ(八重山合歓ノ木)の大木が、アコウやアダンなどと混生しています。

マメ科の落葉高木で夏には繊細な花を咲かせます。分布は、国内では沖縄島と八重山諸島、国外では亜熱帯・熱帯地域に広く生育します。沖縄島北部が分布の北限であることから植物地理学上貴重であり、さらに県内では個体数が少ないため絶滅危惧種に指定されています。

許田のヤエヤマネムノキの生育地を過去の空撮写真と照合すると、そこは入り江であったことがわかりました。おそらく南方から海流で運ばれた種子がこの入り江に漂着し、現在の姿にまで生長したのではないかと考えられます。

2016年の調査では約400m²の範囲で13個体を確認しました。最大サイズの個体では樹高が11.4m、胸高周囲が1.2mあり、これは国内に生育する本種では大木クラスです。かつて、名護市の名木指定候補にあがったこれらの木々は、これからも地元の方々に大切に守られていくことでしょう。

(阿部 篤志)



愛好家たちが丹精込めて育てた
ランの花が色とりどりに咲く、
国内最大級のランの祭典。

熱帯ドリームセンター温室の入り口を飾る、ランのトンネル。

毎年、大勢の来場者でにぎわう沖縄国際洋蘭博覧会(以下、洋蘭博)。協力団体による実行委員会によって開催されており、沖縄美ら島財団は事務局を担う。第31回目となる今回は、熱帯ドリームセンターに展示された約2万7千点のランが、約3万人の目を楽しませた。

洋蘭博の目玉は、鉢物部門、切花部門、ディスプレイ部門、フラワーデザイン部門、国外出展部門の5部門に出展されるランの数々。今回は前回大会よりも多くのエントリーがあり、国内外から9552点が出展され、審査された。国内でも歴史のあるランの博覧会であり、各部門の第1位には、合計6つの大臣賞が用意されている。総合第1位は内閣総理大臣賞、鉢物部門は沖縄及び北方対策担当大臣賞、切花部門は農林水産大臣賞、ディスプレイ部門は国土交通大臣賞、フラワーデザイン部門は文部科学大臣賞、そして国外出展部門は外務大臣賞だ。

洋蘭博開催前日までに数多くの出展作が搬入されるため、舞台裏では大勢のスタッフが一度に動く。届いたランは開封後、まずランを専門とするスタッフが品種を特定。

エントリ情報と照合し、名札をつけて慎重に温室へ搬入。ただし審査の際は公正を期すため、名札には目隠しをする。

「各部門とも、毎年国外から出展する常連さんがいます。ディスプレイ部門は、国外から運搬できない石材や木材などラン以外の資材を当財団で用意するなど、ハンデを補う。中には『ラフレシアが欲しい』という国内では調達の難しいリクエストもあり、『用意できませんので他のもので代用を』とお願ひすることもあります(笑)」

と語るのは、国営公園管理部植物管理チーム熱帯ドリームセンター担当の屋宜遙穂技師。国外からの出展者は陽気でフレンドリーな人が多く、常連として顔見知りになったり、自分のディスプレイが終わると他の団体を手伝ったりすることもあるという。また、5カ国の大使・大使夫人によるテーブル・アレンジメントも、お国柄が表れると好評だ。

沖縄県蘭協会による栽培相談コーナーやガイドツアー、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会沖縄支部によるコサージュや沖縄県華道連盟によるミニいけばな等の教室も開催され、多くのボランティア

に支えられて子どもから大人までさまざまなアプローチでランに親しめるイベントとなっている。

「一般の来場者に加え、県内からバスツアーを組んで来られる団体も多いですね。幼稚園や保育園、インターナショナルスクール、福祉施設など、毎年遠足や野外レクで来られる団体もいらっしやいます。リピーターが多いのはうれしいですよ」

洋蘭博開催中は熱帯ドリームセンター近くの駐車場が満車になるほどの盛況で、海洋博公園内を走る定期遊覧車やオキちゃん劇場とドリームセンターを結ぶマイクロバス(土日のみ)も大活躍。

「来場者アンケートを見ても、満足度は高いようで、『今まで見たことのない花もたくさんあって驚いた。育ててみたくなったので苗を買って帰ろうかと思えます』『とてもいい香りに癒された』『トルコアイスはおいしかった。できれば毎年来てほしい』『ランの種類別に育て方を教えてほしい』などのご意見が寄せられ、私たち現場のスタッフも非常にやりがいを感じますね。これからも、国内外のお客様に愛される洋蘭博をめざして、沖縄観光や地域振興に貢献していければいいなと思っています」

文：いのうえちず



- ①ディスプレイ部門1位を獲得したのは、沖縄県立北部農林高校。「やんばるの花」という今回のテーマに合わせ、「生命の鼓動」と題した作品を展示。受賞常連の強豪校だ。
- ②屋外に設けられたフォトスポット。
- ③屋宜遙穂技師。
- ④大使・大使夫人によるランを使ったテーブルコーディネート(フィリピン共和国)。
- ⑤エントランスには沖縄本島北部7市町村による地域連携ブースも設けられている。
- ⑥沖縄県蘭協会によるランの栽培教室。
- ⑦厳重に梱包された出展ランを、丁寧に開梱し、いったんグループごとに仕分けをする。
- ⑧花や葉の特徴から品種を特定していく。
- ⑨出展されたランの花を傷つけないよう、細心の注意を払って搬入。

食文化研究家
沖縄美ら島財団
総合研究センター研究顧問
安次富 順子 あしとみ じゅんこ



長年、沖縄調理師専門学校で、琉球料理と琉球菓子の研究と指導にあたってきた安次富順子さん。首里城公園鎖之間で、有料にて提供しているお茶とお菓子菓子のセットに関して、安次富さんはお菓子やメニュー選定に携わり、説明パンフレットの監修も担当している。沖縄美ら島財団が琉球食文化の調査・研究を開始するにあたり総合研究センターの研究顧問に就任したばかりだ。その安次富さんに、専門分野のお話を伺った。

「安次富先生といえば王朝菓子研究の第一人者でいらっしやいます。一般的に、琉球菓子といえば、ちんすこうや鬮鶏餃、千寿糕など、揚げたり焼いたりしたものが多く印象ですが、実際にはどのようなものだったんでしょうか？」

安次富「実は和菓子のようなお菓子もたくさんあったんですよ。『水山吹』という、かるかんのようなお菓子などは和菓子系ですが、カラ



鎖之間で出しているのは、花ぼうる、ちいるんこう、くんべん、ちんすこうの四品。

ふわつとしていますが、元は卵黄だけを使うからふくらまず、硬い食感でした。そういう原型を知ることとは大切です。それから、人の味覚も変わっていくものだという意識しなくてはなりませんね。私がまだ若かった頃、全卵を使ったやわらかいちいるんこうを当時の食通の方にお出しすると、『こんな柔らかいちいるんこうがありますか』としたか叱られました。その十数年後、同じものを同じ方にお出しすると『これはおいしい』と、全く逆の評価をいただいた。実は、この十数年の間に、沖縄でもスポンジケーキが一般化して、皆さんやわらかい洋菓子に慣れ親しむようになっていたんです」

フルな琉球ふうアレンジされています。『写那城御殿御菓子并万例帳』などの文献に残るお菓子を調べると、現段階で160種類のお菓子があつたことがわかりました。それを分類すると、和菓子系のお菓子、中国系のお菓子、南蛮系のお菓子に分かれます。王朝時代、王府は包丁人を中国や日本に留学させて、それぞれの技術を学ぶよう奨

「全卵を使う場合と、卵黄だけ、卵白だけでは、全く違う食感のお菓子上がりますね。それに、同じ人でも時と共に味覚も変わることなど、考えてみませんでした。他に何か、お菓子に関するエピソードはありますか？」

安次富「先ほど触れましたが、水山吹というかるかんのお菓子がありますが、沖縄では生地を黄、赤、緑に染め、三色重ねて蒸します。江戸時代、江戸の水山吹は黄色のかるかんの間に小豆あんをはさむと本にできます。このお菓子は江戸から琉球に伝わったのだらうと思いますが、沖縄ならではの感覚で変容させているのが面白いですね。水山吹はレシビが伝承されていましたが、他の多くのお菓子は江戸時代の文献を研究して再現しました」

「その再現メニューも、記録を残すことが大事なんです。安次富「記録を残すことはとても大切だと思えますよ。お菓子の場合、文字の情報だけでは伝わらない、わからないことが多いので、技術的なことはできるだけ写真や映像で残したいですね。私自身、わかる範囲のことは、できるだけ調べて次の世代へ残したいと思えます」

励していました。料理にしても、琉球には日本と中国の両方の要素がまじりあつています。ただ、面白いことに、当時の人はレシビをアレンジして、自分たちのものにしていったようです。王府はそんなに大勢の包丁人を抱えてはいないでしょうから、同じ人が日本と中国、両方へ行って学んでいた可能性もありますね」

「当時のレシビは記録が残っていないんでしょうか？」

安次富「お菓子については数点のレシビはありますが、あとはありません。発注票とも思える記録、内容は菓子の材料、分量、熱源だけが記されているんですが、作り方が記されていないため再現できないお菓子がたくさんあるんですよ。今後、歴史研究家などの共同研究で古文書を解読し、それに基づいて再現していきたいと思えます」

「先生ご自身は、どのようにして琉球菓子を学ばれましたか？」

安次富「沖縄調理師専門学校は、もともと私の母・新島正子がつくった学校です。私が大学を卒業して、料理学校を手伝うという時に、琉球王朝の包丁人だった新垣淑規氏の末裔である新垣淑扶さんから十数

「研究顧問に就任された、沖縄美ら島財団総合研究センターにも先生の知見が活かされるんですね。」

安次富「琉球食文化の研究に関しては、私自身何ができるか、未知数の部分もあります。でも、冊封使や薩摩の在藩奉行などを接待するのに、琉球王朝にはもてなしのころがしつかりあつて、それはこういう形式だというものを、しつかり映像で残したいと考えています。さらに、王様のふだんの食事や、王朝の行事や祭祀にまつわる食べ物なども研究してみたいですね。特に、薩摩とのつながりについては、料理の分野ではまだ再現がなされていないんですよ。現代に伝わる琉球料理を教える人、観光客に琉

種類のお菓子の作り方を教わりました。新垣さんは『記録をとりなさい』と口をすっぱくしておっしゃっていましたね。おかげで私もしっかりと記録を残すことを覚えました。複雑な形をつくる花ぼうるなんか、何段階もスケッチして記録したので、その過程で作り方をすっかり覚えてしまいましたね」

「商品化するには手間のかかりすぎるものなどは、現代社会の経済効率の中では忘れられてしまいがちです。おそらく新垣さんも、琉球菓子本来の、伝統的な製法を先生に託されたんでしょうね。」

安次富「新垣さんに教わったことをベースに、古老への聞き取り調査なども行って、文献にあるお菓子の分類をしたり、レシビの再現を行いました。伝統文化は、守ろうとする姿勢がないと崩れてしまうものです。ひとまず、きちんと基礎を知ること。元を知らずにやることと、元を知ってアレンジすることとは全く別です。時代の流れを越えてどうつなげるかという課題の中で、きちつとしたものを残さないといけないと思っています。例えば、ちいるんこうも今のものは全卵を使ってふくらませるので

琉球料理を広める人は他にもいますので、それは他の方にお任せして、私は、自分にできる分野を研究していこうと思います。調理師学校は引退しましたが、今後は琉球食文化の研究に専念したいですね」

「先生を王朝料理や王朝菓子に向かわせる原動力とは何ですか？」

安次富「そんな大げさなものはありません(笑)。ただ、私も再現してみましたが、琉球には冊封使をもてなす御冠船料理がありました。こういう文化があつたことは、沖縄の誇りにしたいと思えますね。一方で、どこからを王朝料理と言うか、その線引きは難しいものです。例えばクープイリチーは王朝料理と言えるか。ただ、王朝料理や、王朝料理の流れをくんだ上流階級の料理、例えば「五段の御取持」と呼ばれる接待料理などとは別に、庶民が食べていた料理もあつて、医食同源に基づいた食文化が庶民レベルまでしつかり根付いていたことも事実です」

「先人が守った食文化を私たちも継承していきたいですね。」

文いいのうえちす



琉球菓子については鎖之間のスタッフが簡単に日本語と英語で説明している。

旧嘉陽小学校跡地の利活用に関する連携協定を締結

2017年1月18日、美ら島自然学校において名護市主催「旧嘉陽小学校跡地等の利活用に関する連携協定締結式」が執り行われました。

本協定は、名護市の「名護市二見以北4小学校跡地等利用に係る事業」の一環であり、2009年に閉校した嘉陽小学校の跡地利用事業者である沖繩美ら島財団と地元区（嘉陽区・安部区）、そして名護市の三者が一体となって、小学校跡地の活用及び地域振興を行うことを目的に締結されました。



(左から)嘉陽区 翁長信之区長、沖繩美ら島財団 花城良廣理事長、名護市 稲嶺進市長、安部区 富山真寿美区長

締結式の後は、2016年10月に完成したウミガメ飼育施設の内覧、旧嘉陽小学校時代に実施されたウミガメ類の飼育学習や調査について振り返るミニシンポジウムを開催しました。当時飼育指導を行った当財団職員や嘉陽小学校元校長、元PTA会長による講演では、子どもたちの当時の活動や学校の取り組みが紹介されました。

今後、美ら島自然学校は、旧嘉陽小学校から受け継がれた「ウミガメから学ぶ環境学習」等を行う調査研究と普及啓発の拠点として、多くの方々にご利用いただけるよう、地元区や名護市と連携を取りながら事業を推進します。

沖繩美ら島財団が県内大学で

講座を提供します!!

沖繩美ら島財団では、平成27年度より沖繩県内の大学と連携し、寄附講座を実施しています。

平成28年度は、公立大学法人名城大学において、新入学生の卒業要件に含まれる教養教育科目として「沖繩の動植物と歴史文化」と題した講座(全15回)を開講しました(前期：4～8月、後期：9～1月)。講師は当財団職員が務め、海洋公園や首里城公園等の管理運営によって得られた技術や経験、沖繩の動植物や文化に関する調査研究・技術開発の成果等を交えた講座を行いました。受講した学生のレポートには、沖繩の素晴らしさを伝えることの重要性や身近な環境への再発見が得られた等の記述もあり、新たな学びが得られたようです。



「ウミガメ」をテーマにした講座のようす

2016年2月29日には名城大学と包括連携協定に関する協定を結んでいます。平成29年度には琉球大学での寄附講座開講も予定しており、今後両校との益々の連携が期待されます。将来、沖繩県で環境保全や観光産業等に従事する人材の育成につながることを期待し、今後も取り組んで参ります。

宇宙教室「渡部潤一講演会」開催

名護青少年の家において、2017年2月18日に日本宇宙少年団名護分団主催の「宇宙教室 渡部潤一講演会」が「子どもゆめ基金」及び「体験の風をおこそう」の支援により開催されました。

日本宇宙少年団名護分団は名護青少年の家所長を分団長とし、毎月1回天体観測や宇宙科学実験等の合同を実施しています。

また、毎年2月には「ゴズミックカレッジ」と称し大型事業を企画・開催しています。今回は国立天文台副台長の渡部潤一氏に「宇宙生命は存在するかー天文学からのアプローチ」をテーマに、最新の天文観測システム、生命存在の必須要素、今後の天文イベント等についてご講演いただきました。

団員と一般の宇宙愛好家の方々、91名が宇宙の最

新ニュースに耳を傾けました。講演後は、宇宙生命やブラックホール等について活発な質問があり、参加者からは「宇宙の96%はまだわかっていないと知った。私が大人になったら宇宙理解への発展につとめたいと思いました。」など、今後の活動の励みになっていきました。

名護青少年の家では、「学校でも家でできない体験」をテーマに、今後も魅力あふれる様々な活動に取り組みしていきます。



*1 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台

なごアグリパークでドラマ撮影

2016年10月、なごアグリパークにおいて、琉球朝日放送QABとベトナム国営放送VTVの合作ドラマ「遠く離れた同じ空の下」(ベトナムでの放送は2017年1月22日、沖繩での放送は2017年3月20日)の撮影が行われました。



留学生に女性リポーターが農場を紹介するシーン

このドラマは、経済成長が著しいベトナムで沖繩の認知度を高め、将来の観光誘客や県産品の販路拡大につなげることを、また、沖繩からベトナムへの誘客促進、友好関係

の形成を図ることを目的に制作され、沖繩とベトナムを舞台に、沖繩出身の女性リポーターとベトナム人留学生のラブストーリーが描かれています。

撮影では、なごアグリパーク内のスーパーファームにてベトナム人留学生が水耕栽培の野菜を調査するシーンや、美ら島キッチンではアルバイト先として皿洗いシーンなどの撮影がされました。

水耕栽培の技術や色鮮やかなフラワーボールが好評を得たよう、予定より撮影シーンを増やしていただいたり、美ら島キッチンで提供している数々の島野菜には沖繩在住の方々からも質問を受ける一幕がありました。

ドラマでは映せなかった点、お見せできなかった点はまだまだあります。皆さま、ぜひ一度なごアグリパークで実物を見て、体感して、味わってみませんか。

沖繩県立芸術大学 美術工芸学部・大学院造形研究科 第28回卒業・修了作品展にて「沖繩美ら島財団理事長賞」を授与

沖繩美ら島財団は、次世代の沖繩を担う若者の文化・芸術活動を奨励し、将来は沖繩を背景に広く世界で活躍してほしいという願いを込め、

チーフにした壁掛の花器)が当財団理事長賞に選出されました。

沖繩県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形研究科卒業・修了作品展において、「沖繩美ら島財団理事長賞」の授与を第27回作品展より実施しています。

作品展では、当財団理事長賞の他、「北中城村長賞」「北中城文化協会賞」「沖繩県立博物館・美術館長賞」の受賞作品が選出されました。これら受賞作品は、本誌「南ぬ風」vol.43春号/ vol.46冬号の表紙を飾る予定です。

2017年2月15日～19日に開催された第28回作品展では、乾漆技法を用いた漆芸作品(ひらがなをモ

皆様、今号以降表紙にもぜひご注目ください。

編集後記

沖繩県立芸術大学の第28回卒業・修了作品展。学生の皆さんの基礎技術に基づいた自由な発想による作品や作品にかける思いをうかがい、その若さ・情熱に羨望し、また懐かしき思い、改めて身が引き締まる思いがしました。

(編集事務局 MK)

「沖繩美ら島財団理事長賞」

宇地原 梓
作品名「うかぶ」

Vol.43 春号(今号)

「北中城村長賞」

有馬 憂莉
作品名「UMIHABERU」

Vol.44 夏号(予定)

「沖繩県立博物館・美術館館長賞」

玉那覇 真希
作品名「コキユノキオク」

Vol.45 秋号(予定)

「北中城文化協会賞」

白砂 真也
作品名「光の座」

Vol.46 冬号(予定)

おもろさうしの

植物

其の八

琉球王国第4代尚清王代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」に登場する植物の紹介コーナー。
※ 海洋博公園内おもろ植物園で見ることが出来ます。

「あさか・がね」

(ボチヨウジ・ススキ)

(前略)

又 鳴響む精高子が

八重座杜 ちよわちへ

あさか がね 留めば

十百末

「第一三巻七六三」



一口メモ①

ボチヨウジは山地の非石灰岩地域の林下に生える常緑低木であり、北は屋久島・種子島から西表島、台湾、中国南部に分布し、ナガミボチヨウジは山地や低地の石灰岩地域や海岸近くの林下に生える常緑低木であり、北はトカラ列島から琉球列島各島、台湾、フィリピンに分布する。両種は、分布域、生育土壌、葉形、果実の色・形が異なるが、沖縄の方言ではともに「アザカ」と呼ばれ、魔除けや祭祀に用いられた。

おもしろ名 あさか
和名 ボチヨウジ・ナガミボチヨウジ
科名 アカネ科
方言名 アガサ・アタカ・ガラシヌチヒヌグヤ

(前略)

名高い精高子が

八重座杜に來給いて

アザカ(聖木)釘ゲーン釘を

差し給いて

千年の後までも(敵の軍勢を

寄せるまい、と祈ります。)



一口メモ②

山地及び低地の日当たりの良い所に生える大型の多年草本であり、北は南樺太から南十島、日本各地、ロシア、朝鮮、台湾、中国、インドシナ、フィリピン、マレーシアに分布する。沖縄産のものは草丈が高く地上部は枯れずに越冬する特徴があり、古くから茅葺き屋根の材料や家畜の飼料、生活用具などとして用いられてきた。

おもしろ名 がね
和名 ススキ
科名 イネ科
方言名 ゲーン・ゲシチ

「解説」

精高子(聞得大君の美称)が、八重座杜に來給いて、霊力のある聖木アザカやゲーンを土地鎮めのために差し留めたからには、千年も末長く敵の軍勢を寄せるまい、とお祈りを致します。

「せだかこ」は、精高子で霊力の豊かなお方の意。ここでは聞得大君の美称。

「やへざもり」は、拜所名。「やらざもりすく」の中の拜所。

「やらざもりすく」は、那覇港入り口を守るために築かれた城塞。

「あさか」は、植物名。リュウキウウアオキ(琉球青木)の方言名。魔除けの木とされた。

「がね」は植物名。すすきのこと。ゲーン、ゲシチとよばれている。

アサカ、ゲーン、シチヨク(シチク)は古來聖木とされ、神女の採りものとして使われた。

「がね」は植物名。すすきのこと。ゲーン、ゲシチとよばれている。

※ 出典:「おもろさうしの植物」 発行:(財)海洋博覧会記念公園管理財団(現・(一財)沖縄美ら島財団)

沖縄美ら島財団



沖縄美ら島財団
総合研究センター



海洋博公園



首里城公園



美ら島
自然学校



当財団では、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、普及啓発、環境保全、地域貢献等の活動に取り組んでいます。

美らなる島の輝きを御万人へ

沖縄美ら海水族館



沖縄県立
名護青少年の家



なご
アグリパーク



沖縄県立博物館・
美術館



2017年4月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団広報誌

企画・編集・発行

一般財団法人

沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888
TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

季刊誌 南ぬ風 春号 vol.43
2017.4~6

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5 TEL.098-995-4444

ISSN 2189-4140